

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 325 回 「好きなことを感じ、見つける力」

2009.8.16

最近、自分がやりたいことが見つからず、全くやる気にならない。今やっている仕事が好きになれず、これじゃ、ダメになってしまうと思いつつも、何をやっていいかわからない...特に、こんな悩みを持っている若者が多いと聞く。

自分の仕事が好きで仕方がない人は、きっと、こんな悩みは持たないのだろう。好きな仕事であれば熱中できる。何をやっていいかわからないどころか、1日24時間が足らなくて、身体が2つでも3つでも欲しいと思うに違いない。好きでたまらない事を、そのまま生涯の職業にできた人、幸せな人と呼んで間違いないかもしれない。しかし、現実的はそう簡単に、好きな事や趣味をそのままビジネスにできないことが、圧倒的に多い。

よく考えてみれば、そもそもどこかにいつも、「好きな仕事」があるわけではない。目の前にある仕事を好きになるかどうかの問題だと思う。毎日、嫌々ながら時間から時間まで、平々凡々と仕事を処理しているとすれば、今やっている仕事が好きになるはずがない。あるいは、人生を楽しむ合間に、仕事をやっている「新人種」、価値観の違いというらしいが、この方々もまた、仕事が好きになるはずがない。

なぜ、仕事を好きになれないのか？ たぶんそれは、今の仕事と正面から、真剣勝負で向かい合っていないからだと思う。本気で仕事と格闘していれば、必ず、今の状況に疑問が出てくる。何故より効率的にできないのか？ もっとコストは下がらないのか？ 数々の疑問がわいてくるのが普通である。つまり、意に染まない仕事から、好きな仕事へ変えていくプロセスは...

～ 疑問を持ったところから仕事は始まっている。

なぜ？と思う気持ちがあるからこそ興味を持ち仕事が始まっているのである。

そもそも、仕事が自分のためになるかどうかは、本人の好き嫌いとは関係がない。

嫌いな食べ物でも、食べれば必要な栄養分が摂取できるのと同じことである。

では、意に染まない仕事を楽しめるようにするにはどうすればいいか。

仕事を楽しむ道筋はひとつではなく、人の数だけあるということだ。

そこに自分ならではの価値を見出すことができれば、どんな仕事もおもしろがることのできるはずなのである。～ というかもしれない。

これは、『「何でだろう」から仕事は始まる!』(小倉昌男著:2004年5月刊 講談社)という本からの抜粋である。著者の小倉昌男氏(1924~2005年)は、ご存知「クロネコヤマトの宅急便」の生みの親で、卓越した独自の経営手腕は、今や伝説的になっている実業家である。

好きな仕事が、そんな簡単に見つかることはない。恐らく「幸せの青い鳥」と同じで、特別なものを期待して、探し回っている時は見つからない。でも自分の中に「好きなことを感じる力」を身に付けた時に、初めて好きなことを見つめることができる。それは仕事に限ったことではない。たとえば、パートナー探しの場合でも当てはまると思う。どこかに『理想の相手』がいるわけではない。現実の出会いの中で、その相手のいいところ、好きなところをたくさん見つけられるかどうかの勝負だと思う。ただ漠然と理想の相手を探し求めても、見つからない。それよりも自分の中に、好きなところを見つめる力を養うことこそが大切なんだと思っている。

冒頭の悩めるあなた!今あなたに必要なのは、やりたいことを見つけるのではなく、自分の中に「好きなことを感じ、見つける力」を身に付けることだ。あなたは、今やっている仕事の好きな点を、いくつ見つけられる?? マジに、考えてみたら良い!! (参考:黄土倶楽部)